

コーディネーター (地域学校協働活動推進員等) 役割と重要性

井上 尚子

CSマイスター

杉並区立天沼小学校
同

学校運営協議会委員

地域学校協働本部アドバイザー

地域学校協働活動推進の担い手とは

地域学校協働活動推進の様々な担い手

全て、活動には欠かせない
役割

地域学校協働活動推進員

地域住民等の中から、地域と学校の橋渡し役として活動する人を、教育委員会が委嘱する。

地域コーディネーター

地域住民等の中から、地域と学校の橋渡し役として活動する人。教育委員会配置、学校による推薦等。

公民館等社会教育施設職員としての役割

社会教育・生涯教育の拠点として地域住民等と学校をつなぐ活動が期待される。

教育委員会等職員としての役割

職員としての立場から、広く地域を意識しつつ、統括的に地域学校協働活動を進めることが期待される。

学校職員としての役割

学校事務職員等、学校職員としての立場から、地域を理解して学校をつなぐことが期待される。

地域学校協働活動推進のキーパーソン

一般の地域住民が、信頼されながら活動していくために
教育委員会から正式に委嘱された職として
法律に位置付けられたことは、大きな意義がある！

地域をよく
知っている！

地域学校協働活動推進員
地域コーディネーター

学校と連携
しやすい！



学校と地域をつなぐ
役割

コーディネーター（地域学校協働活動推進員等）の役割

【学校教育における協働】

体験場所の開拓



ゲスト講師への依頼



サポーターの調整



地域学校協働活動推進員・地域コーディネーターが
つなぎ役となり、学校と地域の連携による多様な
活動を進める。

コーディネーター



教員

コーディネーター（地域学校協働活動推進員等）の役割

【学校教育における協働】

体験場所の開拓



ゲスト講師への依頼



コーディネーター

サポーターの調整



地域連携担当

- 校内、学校間（校区内）、教育委員会との連絡・調整
- 校内教職員等の協働学習ニーズの把握、調整
- 地域学校協働活動の運営・企画・総括
- 地域との連携に係る研修の企画・実施、先進校の視察など



コーディネーター（地域学校協働活動推進員等）の活動 【学校教育における協働】



「今日は2年生の『町たんけん』です。
2年生のうち2クラスがグループに分かれて近隣のお店や施設を訪問
します。他の2クラスは後日実施します。」

地域学校協働本部（AW）※のサポーターと、保護者の方々が、14
グループの付き添いをしてくれます。」

※本部は愛称を「あまぬまワンダラズ」と言っており、校内ではAWと呼ばれている。



「実は出発の前に、サポーターや保護者の方々にAWのコーディネーターから「町たんけん」の目的や、付き添いの際の諸注意を伝えていました。」

「他の学校であればこういう説明も教員がやらなければならないところですが、天沼小の先生たちはその時間も子どもたちの指導に専念することができるのです。」



「グループに分かれて出発しました。」

AWのコーディネーターがあらかじめ訪問の調整をしている近隣の施設やお店に向かいます。」



四面道の郵便局を訪問したグループです。



教会通りの和菓子屋さんを訪問したグループです。



文房具屋さんで、お店の人に質問をしていました。



お花屋さんでもお話を聞いてメモをしていました。

本部室



コーディネーター

担当教員

打合せ

この学習を協働して行うためには、事前に教員とコーディネーターが打合せをしています。

目的の共有

教員は学習の目的をコーディネーターに伝え、コーディネーターは地域の訪問先の候補を出します。

訪問先への依頼

学習の目的と合っていると双方向で確認。その後、コーディネーターは訪問先を訪ねて学習の受け入れをお願いします。

結果の共有

調整できた訪問先の結果を教員に伝え、訪問先が決定します。

サポート募集

その後、コーディネーターは当日のサポーター、保護者の方々を集めます。

当日

そして、当日を迎えます。

コーディネーター（地域学校協働活動推進員等）の役割

【地域活動における協働】



地域の課題解決のために
地域と学校とが双方向に
協働する

万が一の災害が発生したとき、地域の住民だけでは力が及ばないとの懸念があります。

地域の課題をともに解決するために、地域の防災訓練等に中学生も参加することにより、地域ぐるみの防災活動とすることができます。

中学生にとっても社会貢献意識、ボランティアマインドを育てることにつながるとともに、社会で役に立つ喜びを知るきっかけにもなります。

地域

地域防災力向上への課題



地域学校協働活動推進員
地域コーディネーター
調整・当日引率

学校

ボランティアマインドの育成

学校運営協議会とコーディネーター（地域学校協働活動推進員等）

学校（コミュニティ・スクール） 運営参画

教職員

主幹教諭

校長

教頭
副校長

教職員

学校運営協議会

委員：

- * 学校の所在する地域の住民
- * 対象学校在籍の保護者
- * **地域学校協働活動推進員・
学校の運営に資する活動を行う者**
- * 教育委員会が必要と認める者

役割

- * 学校運営基本方針承認
 - ・ 目指す子ども像の共有
- * 地域学校協働活動に関する協議
 - ・ 目的、目標の共有
 - ・ 手段
 - ・ 教育課程との関連 等

← 一体的推進 →



地域 地域学校協働活動の実践

保護者
PTA

地域
住民

同窓会

自治会
町会

商店会

スポー
ツ団体

地域教育
団体

社会教育
団体

文化
団体

企業
NPO
等

民生児
童委員

中間支
援組織

学校を核
とした地域
づくり

地域学校協働本部

活動の担い手：

- * **地域学校協働活動推進員**
- * **学校の運営に資する活動の推進者
(コーディネーター)**

役割

- * 地域学校協働活動の推進
- * 地域教育力向上のための活動推進
- * 地域の特色を生かした活動の推進 等

地域の人々や団体による「緩やかなネットワーク」のもと、地域学校協働活動を実践

地域とともに
ある学校
づくり

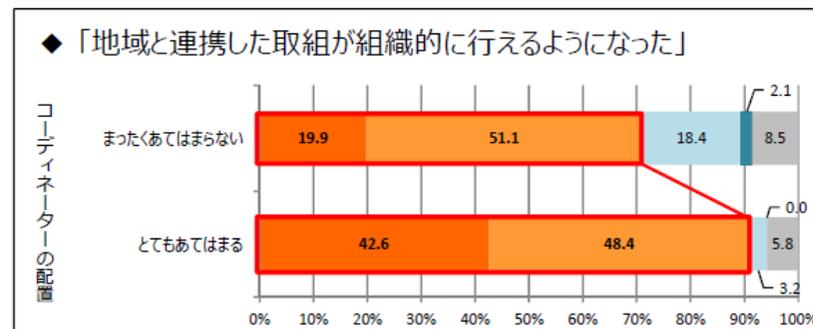
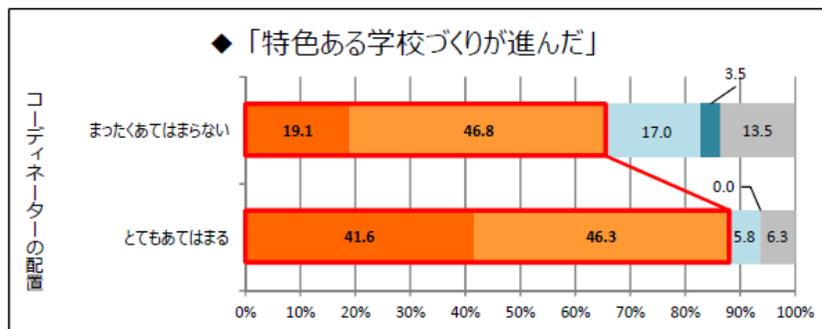
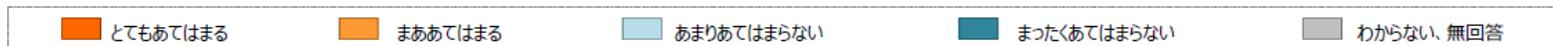
学校運営協議会で目指す子ども像等を共有し、それに基づき地域学校協働活動が行われる

コーディネーターの学校運営協議会委員としての役割

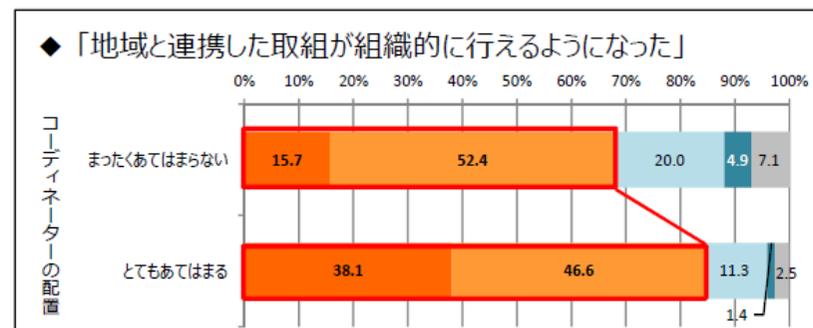
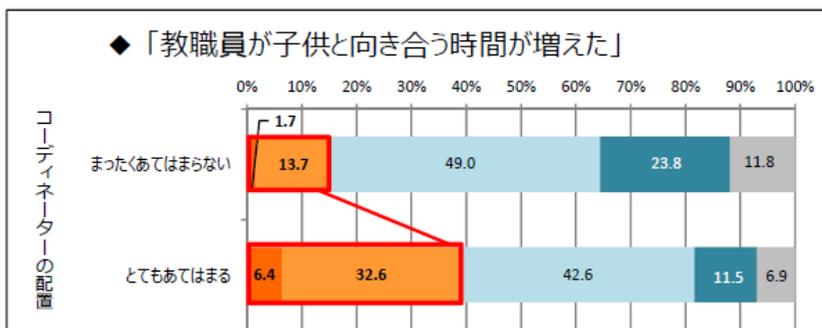
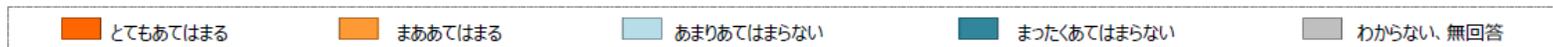
- 目的・目標を共有したうえでの地域学校協働活動の推進
- 地域を理解したコーディネーターによる学校運営への情報提供

コーディネーター（地域学校協働活動推進員等）との連携による効果

◆ CS導入校に対してコーディネーター（地域学校協働活動推進員等）を配置している自治体は、そうでない自治体に比べ、「特色ある学校づくりが進んだ」「地域と連携した取組が組織的に行えるようになった」と実感する割合が高い。



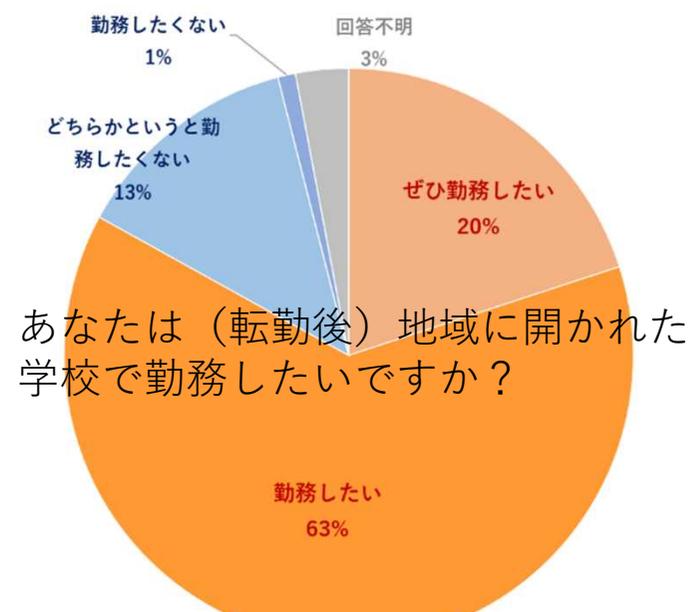
◆ 自治体の取組として、CS導入校に対してコーディネーター（地域学校協働活動推進員等）が配置されている学校は、そうでない学校に比べ、「教職員が子供と向き合う時間が増えた」「地域と連携した取組が組織的に行えるようになった」と実感する割合が高い。



コーディネーター（地域学校協働活動推進員等）との連携による効果

- 学校とコーディネーターの打ち合わせにより、授業のねらいに適した講師・サポーターを確保できる。
- 教員は、調整をコーディネーターに任せられることにより、体験学習を導入しようとするようになる。
- コーディネーターが調整役を担うことで教員は子どもの指導に専念できる。
- 地域をよく知るコーディネーターの調整により、協働学習が効果的に進められる。
- 子どもたちは多様な人とのコミュニケーションを経験できるとともに、地域への理解と愛着を深めることができ、地域に守られ生活していることを実感できる。

こうした効果を経験した教職員は学校と地域の連携・協働について「なくてはならないもの」という認識を高めており、CSや協働活動への理解促進ともなっている。



コーディネーター（地域学校協働活動推進員等）との連携による効果

- 地域の大人たちは、地域学校協働活動を通して子どもたちとふれ合うことで、生きがいを見付けたり、自己有用感をさらに高めたりできる。
- よりよい協働の方法を自らが考え、主体的に、また工夫しながら活動を進めようとしている。
- 地域住民や既存の各団体は、協働活動により、互いが出会う機会を得て、より一層関わりの輪を広げていくことができる。

「読み聞かせ・お話し勉強会」のようす

ボランティアに、よりよい内容にしたいとの意欲が生まれ、自主的な勉強会へと発展。

コーディネーターが毎月スケジュールを調整して実施している。



コーディネーター（地域学校協働活動推進員等）との連携で 必要と考えられる支援策

学校による 支援

- * コーディネーターも学校関係者の一員であることの認知
 - ・ 教職員への紹介機会の設定
- * 教職員との連携・信頼関係の構築
 - ・ 打合せ、交流の場の設定
- * 教職員には、学習がより効果的になる地域学校協働活動への理解・啓発
- * 校内での居場所、活動拠点を工夫
 - ・ 執務できる机、椅子、荷物を置く場所
 - ・ 空き教室、準備室、会議がないときの会議室の提供等
 - ・ 空き教室がない場合は、他の職員と共有する等の工夫
 - ・ ゲスト講師やボランティアとミーティングができる場所

地域の立場としては、居場所がないと、学校にいることに遠慮を感じる。

コーディネーター（地域学校協働活動推進員等）との連携で 必要と考えられる支援策

教育委員会による 支援

- * 行政内の理解、学校教育部門と社会教育部門との連携
 - ・ 行政から得られる情報は貴重
 - ・ 活動推進のための相談に応じる体制
- * 予算の措置
 - ・ 消耗品の購入費、交通費、通信費、広報印刷費等必要経費
 - ・ 活動謝礼、報酬
- * 校内に複数コーディネーターの措置
 - ・ 活動を補完し合える安心感
 - ・ 仲間の存在は大きい
- * 広報・周知への支援
 - ・ 役所内、地域の中間支援組織等、関係するであろう組織へのコーディネーターの周知

お金のためにやっている
わけではないが、
意欲継続のためには必要。

コーディネーター（地域学校協働活動推進員等）との連携で 必要と考えられる支援策

教育委員会による 支援

研修について

- * 活動ステージ（初任者・中堅・ベテラン）に応じた研修
 - ・ 初任者は、コーディネーターとは、活動ノウハウ
 - ・ 中堅者は、主体的に研究会を作っても良い
 - ・ ベテランは、教育全体を俯瞰した課題を理解する研修
(ex.社会に開かれた教育課程・教育とユニバーサルデザイン・教育とジェンダー) 等
- * 他校のコーディネーターとの情報共有
 - ・ 実践事例の共有
 - ・ 地域の教育資源の共有
- * 他地域の研修情報がコーディネーターに届く仕組み
 - ・ 文部科学省、都道府県が実施する研修の情報

子どもたちのために
地域とのつながりのために

